



## 新しい嚥下治療手技について

摂食嚥下リハビリテーションは、食物を口に入れずに行う「間接訓練」と、実際に食物を嚥下することを通じて行う「直接訓練」があります。**近年、神経や筋肉に直接的にまたは間接的に刺激を加えて、神経活動や筋活動の活性を行うという治療方法が試みられ、その効果が報告されています。**

### ★嚥下障害のリハビリテーションにおける神経筋電気刺激(NMES)

食べ物を飲み込むときは、前頸部で触れることのできる舌骨、甲状軟骨という骨が前上方に移動する。この移動に関わる筋肉に電気刺激を行う。訓練方法には、①電気刺激のみ行う。②電気刺激を与えながら努力嚥下をする(間接訓練を実施)。③電気刺激を与えながら食物を嚥下する(直接訓練を実施)。

①の刺激のみより、②、③の刺激を与えながら嚥下の方が効果的であると報告されている。

### ★嚥下障害のリハビリテーションにおける干渉波電気刺激

干渉電流を発生させ、経皮的に咽頭粘膜を刺激する。それにより、舌骨の動きの変化や、嚥下反射が起こるのが速くなった、咳反射が出やすくなった、などの報告がされている。この方法も刺激のみではなく、刺激後に間接訓練、直接訓練を組み合わせる。

文献

柴本 勇:ENTONI 280:69-78, 2023

加賀谷 齊: Jpn Rehabil Med 59 :918-925, 2022

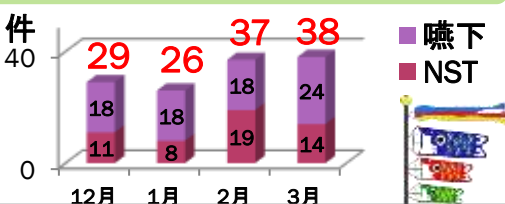


図3. ジェントルスタイム®本体(a)と電極貼付位置(b)  
(<https://medeq.food-care.co.jp/>より引用)

意識障害が遷延した患者さんや、リハビリ担当者の指示に答えられない高度認知症患者さんへ使用するのは難しいです。しかし、積極的にリハビリを行っている患者さんへ使用するのは、そのリハビリ効果を高める方法として期待されています。**今後、上記リハビリテーションを当院でも取り入れていく予定にしています。**

担当:耳鼻いんこう科主任部長 山本美佐子

### 月別栄養サポートチーム加算件数



2023年度は707名の方に回診し、490件の算定をとりました。

### ●加水ゼロ式調理法

ミキサーにかける時に使うだしのかわりに、お粥ゼリーを使う方法です。今までと比べ、**エネルギー量と食べやすさがアップします。**4月1日から、当院の嚥下食に採用しています!

